

## 次期総合計画の策定に係る各種審議会や委員会でのいただいた御意見の概要

### 1 会の名称

平成 29 年度第 1 回沿岸広域振興圏 宮古地区地域連携懇談会

### 2 県側出席者

沿岸広域振興局  
政策地域部政策推進室

### 3 開催日時

平成 30 年 2 月 1 日（木）13：30～15：30

### 4 主な御意見の概要

分野	主な発言内容
人口減少	少子高齢化、人口減少は全国的な課題であるが、震災後、三陸地域では更に拍車がかかっている。岩泉、田野畑では、災害公営住宅の整備により、地域が分散し、地域の人口が減少している。
	未婚率が上昇している。結婚を求め、盛岡に転居した例もある。地域から人を出さない工夫が必要である。
	一つの地域に、ある程度全ての機能があるようにした方が良い。
	地域づくりにおける人材育成が必要である。広範な人材の育成をお願いしたい。人材育成に力を入れて欲しい。
	地域から出て行っても、サケのように帰ってくるようなやり方が必要である。若い人は、小児科と学校があれば戻ってくる。企業誘致は手っ取り早いですが、地元の企業を育てた方がよい。
新たな交通ネットワーク	町では、駅前や線路周辺を盛り上げようとしているが、現実問題、車を持っている人が殆んどであり、自動車中心の考え方もあると思う。
	新道路は、期待も大きく人の流れも大きく変わり、活性化する面がある一方で、置いていかれる地域もあると思う。
産業振興全般	復興需要が終わった後について、相当数の経営者が漠然とした不安を抱えている。地域経済の縮小が懸念される。
	労働生産性の向上についてであるが、岩手は、全国で 2 位の長時間労働、同じく全国で下から 2 位の賃金水準である。
	多様な就業形態の導入が必要である。都会では、土日休んでいるのに、宮古は土曜日働いている。働きすぎである。週休 3 日にして、経営者は、雇用者がダブルワークできるように、1 人が好きなことを複数できるようにしてみてもどうか。幸福度も向上すると思う。

	<p>宮古地域は水産業が基幹産業と言われてきたが、今は基幹産業は製造業である。現在、宮古地域で1,500人就業し、5,000~6,000人の家族を養っている。海外輸出もしており、地域に落ちる金が違う。</p> <p>地域には、大手コネクタ会社、上場企業などもあるが、内陸に比べて立地数が少ない。企業誘致を進めて欲しい。</p> <p>失業率にあらわれず、本当は働きたい人があきらめている例もあると思う。自己実現できる働き方を創出していく必要がある。</p>
観光	<p>観光事業にはハードやモノに頼らないソフト系の事業が必要である。</p> <p>ビジターセンターでは、年間30万人の観光客を受け入れている。インバウンドも多い。DMOのリサーチによると、(三陸には)意外に30代~40代のファミリー層の観光客が多い。浄土が浜のガイドなどNPOの活動団体が少ない。</p> <p>三陸地域は、自然に恵まれた景観がある。一方で、これを生かす市町村の距離感が大きく、市町村連携が課題である。</p> <p>10年後、この三陸地域にどのような人に来て欲しいか良く考える必要がある。例えば浄土が浜では、時間をゆったり過ごせる形にして、それに併せて展開していくことが必要である。</p> <p>縮小人口、縮小経済に対応していくためには、交流人口の拡大が必要である。インバウンド10名が定住者1人の経済に等しいとの話もある。観光が重要である。フェリーもあるが、三陸復興道路により、八戸仙台などを目指してくる流れも取り込める。そのためには、広域連携が必要である。</p> <p>三陸は観光資源が豊富である。景色を見たい、美味しいものを食べたいなど豊富にある。この資源を生かすも殺すも、人と仕組み次第である。三陸DMOセンターなど、観光を担う、連携の基礎ができつつあり期待している。</p>
水産業	<p>宮古地域の基幹産業は、漁業であるが、震災後、漁業従事者の減少が進み、担い手不足を懸念している。9割方は復旧が進んでいるが、次の段階で、事業の拡大等を行っていく場合、若い人材が必要である。若い人が増えて、宮古の漁業を支えて欲しい。</p>
農林業	<p>山の木が安い。国の支援などで木材の利活用の推進をしているが、現在は、公共建築物でも木材を使わない。学校や役場に木材を使って欲しい。森林は半世紀事業。山の生活圏も考えて、計画を検討して欲しい。</p> <p>道路が整備され、フェリーも就航する中、将来的にはリンゴの観光農園を外国観光客に体験して欲しい。</p> <p>熊や鹿などの獣害が甚大である。市による被害対策補助はあるが、これでは不十分である。拡充をお願いしたい。</p> <p>一次産業の担い手対策が重要である。普及センターなどの支援も得ながら行っているが、自分の子どもに継がせるやり方、持続性の確保が必要である。</p>

医療・保健・福祉・介護	<p>宮古の県立病院は、年寄りばかりが来ているが、若い人は、専門知識を持った医者が常駐している内陸の病院に行っている。地方においても、高度な医療が受けられるよう、多少高くても整備して欲しい。</p>
子育て・女性・若者支援	<p>宮古病院をはじめ、宮古医療圏域の医師数が少なすぎる。医師の充実をお願いしたい。復興支援で来た人が、宮古の医療を見て、定住しようとしても、これでは親を連れて来れない、とあきらめた例もある。</p> <p>田野畑村は、医療費の無料制度など小さい子ども、未就学児童に対し、手厚い支援があり不安が無い。子どもが小さいうちは不安は無いが、心配しているのは中高生になった場合である。</p> <p>沿岸地域には、子どもにとって、学力であったり、スポーツであったり、様々な選択肢が少なく、環境づくりが必要である。</p> <p>子どもを産むと、仕事を続けるか、辞めるかが大きな問題である。ライフステージに応じた、多様な就業形態が取れるようになればよいと思う。育児をしながらやりがいある仕事もできれば、地域から離れずとも済む。</p>
自治体運営等	<p>今後行政サービスが減る中で、NPO などと連携し、いろいろな選択肢を確保できればよいと思う。強い当事者意識を持つ人材の確保が必要である。</p>
次期総合計画について	<p>「幸福」を考えた取組は素晴らしい。懸念される点ばかりに意識が向くと、マイナス思考となり、いいところはない。いいところを外に向けてクローズアップしていく。</p>
その他	<p>教育を是非次期計画で色濃くして欲しい。教育は人の基本中の基本をつくるものである。長らく教育振興をしてきたが、岩手の学力は最低レベルである。学力向上は、この先の永遠の課題である。</p> <p>沿岸部には、学習塾も無い。学力の高い子どもは、内陸に流れてしまう。</p> <p>消防団員の減少を懸念している。公務員、事業所の体験入団を進めて欲しい。</p> <p>地域振興では、大自然をアピールしてみてもどうか。自然には金をかける必要がない。大きくアピールすべきである。</p> <p>企業側で、託児所をつくる例が内陸を中心にあるが、自社でも託児所を設置しようとしたら、色々な縛りがあった。町でのルール、縛りもある。企業としては、金よりも、ルールの緩和をして欲しい。景気は悪くなく、企業には内部留保もある。子どもや介護に使いたいので、金ではなく、ルールの緩和をお願いしたい。</p> <p>結婚で、外から来た方に優秀な方が多い。この方々の活用が必要である。</p>